



# 新屋図書館だより



発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町 12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 250

R4. 12月号

## 新サービス続々登場！

### ■ 蔵書検索予約サービス更新！

秋田市立図書館の蔵書検索予約ページが新しくなりました。  
ぜひのぞいてみてください！

ご不明な点は職員まで

### ■ かぞくぶっくぱっくリニューアル！

本のお楽しみ袋“かぞくぶっくぱっく”の中身を総入れ替えしました。  
“中身がみえるぱっく”や、この時期にぴったりの“テーマぱっく”もありますよ！

### ■ 図書除菌機導入！

図書館の本を除菌できる機械を館内に設置しました。ご自由にお使いいただけます。

## 冬のスペシャルおはなし会



★12月3日(土)★

14:00~14:40

研修室 (幼児~小学生)

冬の楽しい  
おはなしだよ



★12月13日(火)★

10:30~11:00

研修室 (赤ちゃん~)

あそびに  
きてね！

## 年末年始の休館日のお知らせ

令和4年12月28日(水)から令和5年1月4日(水)まで休館します。

新年は、5日(木)午前10時から開館します。

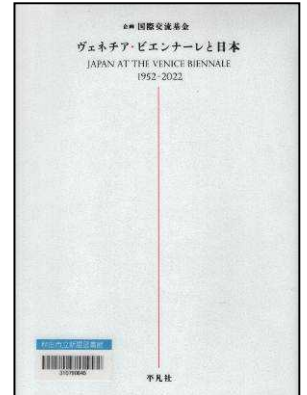
# 新刊案内

## ヴェネチア・ビエンナーレと日本

国際交流基金／企画・監修

平凡社 請求記号 702.16 ( 展覧会 )

世界各地で芸術祭が開かれています、その中でもヴェネチア・ビエンナーレは127年の歴史をもつ特別な存在です。国単位の参加方式を採用し、日本は公式参加70周年を迎えました。今年から遡る逆編年体でまとめられた当書は、日本と世界の時代を映し出しています。



## SNS別最新著作権入門

井上 拓／著

誠文堂新光社 請求記号 021.2 ( 著作権 )

ネット上には様々なSNSが存在し、多くの方が利用されています。当書には「ネタバレ」などを投稿する際に気になる著作権について分かりやすく解説されています。「これは違法なの？」という不安が消える、正しくSNSを楽しむのにはうってつけの入門書です。



## 音声学、娘とことばの不思議に飛び込む

—プリチュウワからカピチュウ、おっけーぐるぐるまで—

川原 繁人／著

朝日出版社 請求記号 801.1 ( 音声学 )

ふみちり、とうもころし、あっかたい…。子どもの言い間違いには、しっかりとした理由があります。著者は自身の子育ての経験から、子どものことばを音声学の視点から分析。あの人気キャラクター名にも秘密が…！子育てエピソード満載の音声学入門書です。

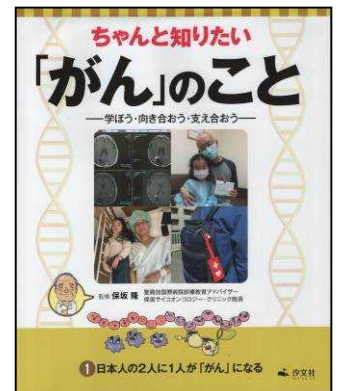


## ちゃんと知りたい「がん」のこと

—学ぼう・向き合おう・支え合おう—

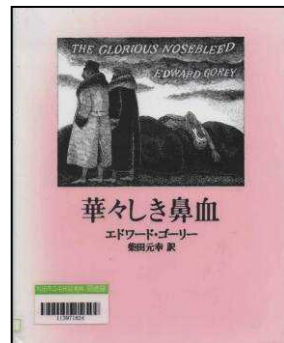
汐文社 請求記号 49 ( がん ) 3巻セット ※小学校高学年から

子どもでも、正しい知識を持っていれば、「がん」とたたかう人の支えになることができます。1巻目はからだや病気のしくみ、2巻目は身近な人ががんになったときのこと、3巻目は社会全体でがん患者の暮らしを支え、一緒に生きていくことについて書かれています。命の大切さや、自分の生き方を考えながら、ぜひ読んでみてください。



## 図書館員（鈴木 希未）のおすすめ本

書名	華々しき鼻血
著者名	エドワード・ゴリー
出版社	河出書房新社
所蔵	明德
	請求記号 726 (絵本)



私が紹介する本の著者、エドワード・ゴリーの世界はシュールかつ毒気が多く、中にはやや残酷な描写がある作品も…そんな中でこちら『華々しき鼻血』は安心しておすすめできる内容だと思います。（ほんとに…？）

最初にお伝えしたいのは、華々しい内容でも鼻血の話でもないということ。この本は副詞をアルファベット順に紹介し、その副詞にちなん

だ挿絵が添えられている構成です。この副詞のチョイスがなかなか癖物。例えば表題である「華々しき」、本編からは「たえがたく」「あてどなく」「ぞんざいに」など。どんな挿絵が添えられているのか気になりませんか？

言葉選びのセンスと、緻密でダークな挿絵が不思議な魅力を醸し出す当書は、初めてゴリーに触れる方への入門書にピッタリです。

## 図書館員（佐藤 奏）のおすすめ本

書名	面白くて眠れなくなる恐竜
著者名	平山 廉／著
出版社	PHP研究所
所蔵	新屋
	請求記号 457.87 (恐竜)



古代、恐竜は地球上に一億六千万年以上の長きにわたり君臨していました。当書では、化石に残された手がかりや、現在生息している動物との比較から彼らの姿や生活に迫ります。

現在では定説となりつつある「鳥類は恐竜から進化した」という仮説を検証したり、歯の化石から何を食べていたのかを推理したりと、恐竜世界の謎を解いていく楽しみを味わえます。

中でも、これまで知る手立てもないとされてきた恐竜の色が一部判明したことは驚きでした。

ティラノサウルスやトリケラトプスの意外な生態や、「始祖鳥は本当に最古の鳥？」「絶滅の原因は巨大隕石ではなく哺乳類？」といった、これまでの常識を覆すエピソードも盛り沢山の1冊です。著者が岩手県で行った発掘調査の様子とその最新情報も紹介されています。



## 記事になったお酒の話題あれこれ…脱炭素化…

酒造りという長い長い歴史のある生業を未来に残していくために、製造工程の脱炭素化をめざす酒蔵があります。神戸市東灘区の酒蔵、神戸酒心館の社長は、朝日新聞の取材に対し、「質の高い原材料を安定して調達するために脱炭素にかじをきった」と答えました。近年の気候変化により酒米の育成に悪影響が起これることを防ぐためです。工場では再生可能エネルギーで作った電力を使い、精米を3割の削りから2割にする、環境保全活動を行うなど、持続可能な日本酒造りが始まっています。

新屋は、醸造の街。  
新屋図書館には、酒の  
資料コーナーがあります。

【参考資料】  
朝日新聞 兵庫版  
2022年11月1日

## 今、あなたへ…読んであったまろう！…

日に日に寒さが深まってきました。重ね着したり、厚めの毛布にくるまったり、ストーブにあたったり…皆さん様々な方法で暖を取られていることと思います。こんな時期は、おいしそうであったか〜いおはなしを読んで、“目と心”から暖まってみるのはいかがでしょうか？

『あたりまえのぜひたく。』シリーズ（幻冬舎）は、秋田県横手市出身の漫画家・きくち正太さんによる、うまいもの目白押しなグルメコミックエッセイ。秋田の食材、料理もたくさん登場します。

同じくコミックエッセイの『佐藤ジュンコひとり飯な日々』『佐藤ジュンコのおなか福福日記』（ミシマ社）には、仙台在住のイラストレーターである佐藤さんが、日本中でいろいろなモノを食べ歩く満腹エピソードが満載。立ち寄ったお店や地元の方々との交流にもほっこりします。

『ずるずる、ラーメン』（河出書房新社）は、数々の文筆家によるラーメンをテーマとした名エッセイを32編収録したアンソロジーです。思わず笑ってしまうものからちょっとせつなくホロリとするものまで、多種多様な“一杯”をどうぞ！

## 図書館員のひとりごと

寒さが本格的に増して、日が暮れるのも早くなり、冬の訪れを感じ始めました。暖かい鍋の季節、今年本格デビューした秋田県の新たな品種「サキホコレ」を使ったきりたんぽが気になっています。

先日、我が家のIH調理器が十数年ぶりにリニューアルしました。グリルの自動調理、音声ガイド、電気表示など家電の進化を目の当たりにしながら季節の料理を楽しむ日々を過ごしています。

今年も残すところあと一か月。一年の締めくくりを悔いのないよう過ごしたいと思っています。来年もよろしくお願ひ致します。（佐藤）

朝の1人ウォーキングが楽しくてしょうがありません。知らなかった裏道やオシャレなカフェ、新しく出来たお店など普段車生活をしているとなかなか気付けない発見が山ほどあります。（ほぼ行けていませんが…。）

なにより私が一番楽しみなのは散歩中の犬とすれ違うことです♥ルンルンとしっぽをふりながら楽しそうに歩く姿が本当に愛らしい。毎日見かける子や初めて会う子。どの子もみんな愛らしい。心の中で「かわいいね〜楽しいね〜♪」と話しかけ癒される毎朝です。数年後には1人ではなく1人と1匹でウォーキングをしていることでしょう。（三浦）